ハーネス編シェイクスピア全集における挿し絵の幕場選択

(その一)

平　岩　紀　夫

The Significance of Illustrative Pictures in Shakespeare's Works edited by Willian Harness

Toshio Hiraiwa

この全集の編者の正式の名前は，Reverent William Harness (1790－1869) である。研究社の英米文学辞典によれば, Harness Prize とゆう賞がある。同辞典によれば, この賞は「Cambridge 大学にある文学賞。Rev. William Harness (1790－1869) の遺産によって設定されたもので, Shakespeare* 関係の優秀論文に与えられる。」と説明されている。従って，ハーネスはシェイクスピアの研究者であったことが分かる。全集の題名の頁には，ハーネスは Christ's College, Cambridge の A.M. と書かれている。

さて，この全集は全八巻であり，1830年にロンドンで J.F.Dove によって出版された初版の全集であり，その当時の柾目の濃紺の総モロッコ皮装訂で幅広い金色の波形の模様で表皮が飾られ，本の背皮には金色のパネル装飾がついた 8 vo. 大の美本である。この全集には損傷は全くない。紙の縦横全面金色。

編者ハーネスの序文によれば，この全集は概して Johnson と Steevens に従って編集され，ごくわずかな場所においてのみ両者から離れている。それは本来の読みを復活させるためであり，あるいは，ある著名な注釈者の承認された修正を認めるためである。シェイクスピアの生涯，遺言状，作品の年代の順序，作品の諸版，シェイクスピアの作とされている劇作品，いくつかのシェイクスピアの肖像画の説明，シェイクスピアを称える詩文集，及び Rowe の序文，Pope の序文，Johnson の序文が収録されている。

ところで，この全集には，シェイクスピアの劇作品のひとつひとつに，それぞれ，ひとつの幕場をイラストする挿し絵がひとつだけ入っている。筆者は，その挿し絵を入れる幕場の一箇所だけの選択の仕方に深い興味を感じた。ひとつの劇作品において，ひとつの幕場にだけ挿し絵をひとつだけ入れるからには，挿入の責任者，おそらく編者ハーネスは，でたらめに考慮なしに挿し絵の幕場を決定したはずがない。その選択に関しては，編者はいろいろの角度から，また，いろいろの意味において，深慮の結果，各作品のたったひとつの幕場を選択して，そこ

に挿し絵を入れたにちがいない。すくなくとも筆者が予想した幕場とは全く違った思いもよらぬ幕場が選ばれて挿し絵が挿入されている場合が多い。各作品に関してハーネスが挿し絵挿入のために選んだたったひとつの幕場の選択の仕方は，すくなくともその作品を理解，鑑賞するにあたって，きわめて重要なポイントをすくなくともひとつ読者に暗示していると言って間違いではない。このことは，ハーネス編のシェイクスピア全集の挿し絵の入れ方に関して言えることであり，たとえば，Hardingが編集した十二巻のシェイクスピア全集においては，ひとつの劇作品のいくつかの幕場にそれぞれイラストの挿し絵が入っているが，これらの挿し絵は他のシェイクスピア全集において見たことのある挿し絵もあって，ハーネスの選択の仕方とは違って，さほど重要なポイントを暗示しているとは思われないし，また陳腐でもある。
そんなわけで，これからハーネスの挿し絵幕場選択の仕方を，馴染み深い作品に関して順を追って考察する。まず最初に第一巻の *"Tempest"* について言うならば，ハーネスは嵐の場でもなく，プロスペローが魔法を使って妖精に活躍させる場でもなく，キャリバンの場でもなく，三幕一場のミランダとファーディナンドの愛の台詞の箇所を選んで挿し絵をひとつだけ入れている。

Mira. Do you love me ?
Fer. O heaven, O earth, bear witness to this sound,
And crown what I profess with kind event,
If I speak true; if hollowly, invert
What best is boded me, to mischief ! I,
Beyond all limit of what else i'the world,
Do love, prize, honour you.
Mir. I am a fool,
To weep at what I am glad of.
Pro. Fair encounter
Of two most rare affections! Heavens rain grace
On that which breeds between them !

(vol. 1, Act Ⅲ. –Scene I. P. 45)

上の引用は，挿し絵の下の台詞をすこし長く引用したものである。その大意を解釈するならば，

ミランダ。わたくしを愛していますか
ファーディナンド。おお天よ　おお地よ　この言葉を証ししたまえ　わが宣言に暖かい結果の冠をのせたまえ　わが言葉が真実ならば　もしもわが言葉が誠(まこと)ならざれば　われに予言される最良のものといえども禍事(まがごと)に変えたまえ！この世の他の何物にもまして　あなたを愛し

高く評価し　敬意を表します。

ミランダ。うれしいことを耳にしながら涙を流すとは　わたくしは愚者(おろかもの)でございます。

プロスペロー。まことに貴重な二人の愛情の美しい出会いじゃ！神よ　かれらの間に生まれる子供に祝福の雨を降らせたまえ！

この場面は，ある意味でこのロマンス劇を成功させるために最も重要な中核的な場面である。と言うのは，プロスペロー自身が告白しているとおり，彼の魔法の力も所詮霧や幻のようにむなしいものであり，反抗し勝ちなエアリアルの妖精を魔法の力で主管しながら悪人たちを懲らしめてみても，それはプロスペローの最も重大な目的の遂行にはなりえない。それだけではプロスペローの真の目的は達成されない。彼の魔法の力がむなしいと同様に，悪人たちの過去の罪を責めること自体もむなしい。すくなくともそれはプロスペローの真の悦び，彼にとっての真の償いにはなりえない。彼の娘ミランダとナポリの王子ファーディナンドの生身の現実の真の愛の実現こそ実に，プロスペローの魔法によるむなしい主管の成果を，むなしからざる真の現実の祝福された成果に変えるものであり，それによってこそ，プロスペローの真の目的が達成されるのである。さらに，このファーディナンドとミランダの現実の生身の愛の実現は，魔法による劇の世界そのもののむなしさを，現実の若い活力に満ちた世界に変えることにもなって，劇構成においてもシェイクスピアの常套手段である現実への復帰を意味する。しかもその現実復帰は，現実の愛と神の祝福の融一であり，シェイクスピアのロマン芸術の極致である。ちなみに，ファーディナンドの "bear witness to this sound," の sound とゆう語は辞書的な意味では言葉，愛の言葉を意味する。しかしながら筆者の主観を言わしていただくならば，この "sound" は，プロスペローが魔法の力で常に島に漂わせている，よかれあしかれむなしい不思議な音のなかで厳粛に響く現実の活力に満ちた愛の証しの力の音である。このように考えると，ハーネスの挿し絵挿入の場面選択の炯眼に敬意を表さざるをえない。

次に第一巻の "*Merry Wives of Windsor*" の挿し絵の場面選択について言うならば，ハーネスは，フォールスタッフがあわてふためいて洗濯篭のなかへ入ろうとする場面を三幕三場から一箇所だけ選んで挿し絵を入れてある。その場面をすこし大幅に引用する。

Mrs. Page. For shame, never stand *you had*
rather, and *you had rather;* your husband's
here at hand. –Bethink you of some conveyance:
in the house you cannot hide him. – O, how
have you deceived me! –Look, here is a
basket; if he be of any reasonable stature,
he may creep in here; and throw foul linen upon
him, as if it were going to bucking: Or, it is

whiting-time, send him by your two men to
Datchet mead.

Mrs. Ford. He's too big to go in there: What
shall I do ?

Re-enter Falstaff.

Fal. Let me see't, let me see't! O let me
see't ! I'll in; follow your friend's
counsel; –I'll in.

Mrs. Page. What! sir John Falstaff ! Are these
your letters, knight ?

Fal. I love thee, and none but thee; help me
away: let me creep in here; I'll never–

[*He goes into the Basket, they cover him with foul linen.*

(vol 1, ACT Ⅲ. –SCENE Ⅲ. P. 195)

上の引用の大意を解釈するならば,

ペイジ夫人。恥を知りなさい　絶対立ってはなりません　むしろ　むしろ　あなたの夫がすぐにここに来ていますよ……なにか運び出すことを考えなさい　家のなかに彼を隠すことはできませんよ……おおなんとひどい騙しかたをわたくしになさったことか！……ほら　ここに篭があるわ　もし彼が法外に大きくなければ　ここに這いこんでもいいわ　そして　洗濯に出すように見せかけて　彼の上に汚れたリンネルの布を投げかけなさい　漂白しなきゃならない頃です　ダッチェットの草の生えた川辺の低地へ　あなたの下男に運ばせなさい。

フォード夫人。彼は大きすぎてそこには入れません　どうしましょう。

フォールスタッフは再び入ってくる。

フォールスタッフ。その篭を見せてくれ　見せてくれ！　おお　篭を見せてくれ！わしは入いるよ　わしは入いるよ　お前の友人の助言に従うよ……わしは入いるぞ。

ペイジ夫人。なんたることです！ジョン，フォールスタッフ様　これらはあなたの手紙ですか　それでも騎士ですか。

フォールスタッフ。わしはお前を愛している　お前だけを愛している　わしを助け出してくれ　このなかに這いこませてくれ　わしは絶対に……

〔彼は篭のなかに入る　夫人たちは汚れたリンネルの布を彼の上にかぶせる。

ハーネスがこの喜劇に関して，この場面一箇所を挿入絵として選択した理由はいろいろ考えられる。Quartos の最初の研究者として有名な Edward Capell（1713－81）が1768年にロンドンで Dryden Leach の印刷によって出版したシェイクスピア全集 "*Capell's Shakespeare*" 十巻のなかの第一巻のインツロダクションに "*Merry Wives of Windsor*" の解説がある。(vol. 1, P.P.63－64）それによれば，エリザベス女王がシェイクスピアのヘンリー四世二部作品に出てくるフォールスタッフの見事な性格が非常に気に入られたために，女王はシェイクスピアにもうひとつの劇でフォールスタッフの性格演出を続け，フォールスタッフが恋をする場面を見せることを命じたらしい。そしてそれがシェイクスピアが彼の "*Merry Wives of Windsor*" を書いた動機であるらしい。従って，フォールスタッフがペイジ夫人とフォード夫人に恋をする場面は，この喜劇の最も重要な場面である。そして，フォールスタッフのような男がまともな恋をしたのでは，女王が期待する見事なコミカルな面白さが失われてしまうから，引用した場面が示すような笑い物にされる恋をシェイクスピアはフォールスタッフにさせていると筆者は判断する。さらに，このようなフォールスタッフの恋に関して，笑い物にされるのはフォールスタッフ自身だけではなく，ペイジ夫人とフォード夫人の亭主の愚かなやきもちもまた笑い物にされている。そして，フォールスタッフをはじめとして亭主たち，つまり男の愚かさだけが笑い物にされ，かれらの愚かさとは対比的にペイジ夫人やフォード夫人つまり女性の賢明さと貞節が強調されている。筆者の独断によれば，これはシェイクスピアが女性の愚かさをこの喜劇に混入することは，女王の心証を害することを恐れたからであろう。フォールスタッフのような男にこのような愚かな恋をさせて笑い物にし，それにからめて，フォールスタッフのためにやきもちをやく亭主たちの愚かさを笑い物にする場面こそ女王を面白がらせる最適の方法であろう。ちなみに，Herbert Farjeon が1929年に出版した Nonesuch Press から出版した第一 Folio の七巻のシェイクスピア全集によれば，ペイジ夫人の台詞が，What Sir *John Faistaffe ?* Are these your Letters, Kninght ?（vol. 1, P. 206）のように，Sir が大文字化され，ジョン，フォールスタッフの名前がイタリック化され，Letters, Knight ? が大文字化されている。これは，ジョン，フォールスタッフ様ともあろうおかたがこんな恋文を二人の人妻に書くなんて，それでもあなたは騎士ですか，騎士の風上にもおけないと言う風に，フォールスタッフにたいする揶揄と詰責を強調するためである。以上の意味において，ハーネスがこの喜劇の最も重要な中核的な場面として，この場面を挿入絵としてひとつだけ選んだのは適切であると筆者は判断する。

次にハーネスのシェイクスピア全集の第二巻の "*Measure for Measure*" の挿し絵について言うならば，ハーネスは四幕三場の "Trust not my holy order if I prevent your course" と言う公爵のイザベラにたいする台詞の場面を一箇所だけ選択する。この部分を大幅に引用する。

Isab. I am directed by you.

Duke. This letter then to friar Peter give:

6

'Tis that he sent me of the duke's return:
Say, by this token, I desire his company
At Mariana's house to-night. Her cause, and yours,
I'll perfect him withal; and he shall bring you
Before the duke; and to the head of Angelo
Accuse him home and home. For my poor self,
I am combined by a sacred vow,
And shall be absent. Wend you with this letter:
Command these fretting waters from your eyes
With a light heart; trust not my holy order,
If I pervert your course. —Who's here ?

(vol. 2, P. 146)

上の引用の大意を解釈するならば,

イザベラ。　　あなた様の御指図どおりにいたします。

公爵。それでは　この手紙をピーター修道僧に渡しなされ。と言うのは　ピーター修道僧がわしに使者を送って公爵のお帰りを知らせてまいった。この命令の書類を証拠にして　今夜わしがマライアの家で彼と落ち合うことを望んでいると言いなされ。マライアの訴えとそなたの訴えは　その会合で完全に解決するつもりじゃ。そしてその修道僧がそなたを公爵の御前に連れて行ってくれる筈じゃ。そしてアンジェロとゆう人にそなたの気のすむまで徹底的に彼の非を責めなされ。このわし自身はどうするかと言えば，わしは神様への聖なる誓いに縛られて顔が出せないのじゃ。さあ　この手紙を持って行くのじゃ。そなたの目から涙を追い払って心に入れる光りを持ちなされ，からだに毒じゃ　もしもわしがそなたの歩むべき道を悪い方向に歪めるならば，わしの聖なる命令を疑いなされ。……誰じゃ。

ハーネスが "*Measure for Measure*" の挿し絵としてこの場面を一箇所だけ選んだことには，それなりの極めて重要な理由がある。と言うのは，そもそもこの劇は，巷に群がる売春婦，梅毒の流行，あまりにもひどい性道徳の堕落，それと対極的に冷酷非情な代理裁判官アンジェロー，未婚の女を孕せたら死刑とゆう冷酷な法律，ジュリエットとゆう女を愛しながら孕ませた罪で死刑を宣告されたクローディオとゆう青年，その青年の命乞いをする彼の妹イザベラ，そのイザベラに兄の命乞いをされたとき彼女の魅力にまどわされて，イザベラの肉体とひきかえにクローディオの命を助けやると言ってイザベラを誘惑するアンジェローの偽善，さらにその裏でマライアナとゆう女と婚約しながら約束を破ったまま彼女を放置しているアンジェローの二重の偽善，そのくせ世間では至上の潔白裁判官とゆう名声を持つアンジェロー，さらに，イザベラとの約束を破ってクローディオを死刑にしようとするアンジェローの腹黒さ，このような浮

世地獄の暗い社会の裏が，この劇の世界である。上に引用された挿し絵の場面は，公爵が変装して，イザベラと彼の兄のクローディアスの真の愛をこのような偽善と矛盾と非情の浮世地獄から救出する道をイザベラに指示し，イザベラが神から霊的な黙示を感受するかのように公爵の指示にすなおに従う場面であり，この場面こそ，この劇の不潔で醜悪なみるに耐えない世界に愛の勝利とアンジェローの悔恨と改心と堕落にたいする正当な罰と最後的な寛大な慈悲と許しの光を与える原動力なのである。つまりハーネスは，この陰惨で不潔な醜悪感しか与えないこのドラマに救いと光を与えるための最も重要なシェイクスピアのテクニックの場を選んで挿し絵にしたと筆者は判断する。ちなみに，Herbert Farjeon の Nonesuch Folio 版からこの場面を引用する。

Isa. I am directed by you.
Duk. This Letter then to Friar *Peter* give,
'Tis that he sent me of the Dukes returne:
Say, by this token, I desire his companie
At *Mariana's* house to night. Her cause, and yours
Ile perfect him withall, and he shal bring you
Before the Duke; and to the head of *Angelo*
Accuse him home and home. For my poore selfe,
I am combined by a sacred Vow,
And shall be absent. Wend you with this Letter:
Command these fretting waters from your eies
With a light heart; trust not my holie Order
If I pervert your course: whose heere ?

(vol. 1, P. 320)

上に引用したとおり，Folio では Letter が大文字化されて，手紙の権威が暗示される。次に Friar が大文字化され *Peter* がイタリック化されて，ピーター修道僧の厳粛さが強調され，Dukes returne のように公爵が大文字化されて公爵の権威が強調され，*Mariansa's* がイタリック化されて，彼女への注意が強化され，再び Duke が大文字化されている。次に *Angelo* の名前がイタリック化され注意が強調される。次に Vow が大文字化されて公爵の誓いの神聖さが強調される。次に Letter が再び大文字化されて，手紙の重大さが強調され，Order も大文字化されて，公爵の指示命令の権威と神聖さが強調される。

次にハーネス版シェイクスピアの第二巻の "*Midsummer-Night's Dream*" の挿し絵の場面選択について言うならば，ハーネスは，この劇の二幕二場の Puck の "I'll put a girdle round about

the earth" と言う台詞の場面を一箇所選んでその場面の挿し絵を入れてある。まずその台詞の前後を引用する。

Puck. I remember.
Obe. That very time I saw, (but thou could'st not,)
Flying between the cold moon and the earth,
Cupid all arm'd: a certain aim he took
At a fair vestal, throned by the west;
And loos'd his love-shaft smartly form his bow,
As it should pierce a hundred thousand hearts:
But I might see young Cupid's fiery shaft
Quench'd in the chaste beams of the wat'ry moon;
And the imperial votress passed on,
In maiden meditation, fancy-free;
Yet mark'd I where the bolt of Cupid fell:
It fell upon a little western flower,–
Before, milk-white; now purple with love's wound,–
And maidens call it, love-in-idleness.
Fetch me that flower; the herb I show'd thee once;
The juice of it on sleeping eye-lids laid,
Will make or man or woman madly dote
Upon the next live creature that it sees.
Fetch me this herb: and be thou here again,
Ere the leviathan can swim a league.
Puck. I'll put a girdle round about the earth
In forty minutes. [*Exit* Puck.

(vol. 2, P.P. 269－270)

上の引用の大意を解釈するならば,

パック。　おぼえております。

オベロン。ちょうどあのとき　わしは　寒寒(さむざむ)とした月と大地の中間を　全身武装したキューピッドが飛んでいるのを見た（だが　お前は見ることができなかった）彼は西の方(かた)の王座についているひとりの美しい処女に確実な弓の狙いをつけた　そして彼の弓から恋の矢を鋭くひゅーっと放った　その勢いは百万人の心臓さえも貫き通すほどの勢いじゃった。しかしなが

ら　その若いキューピッドの火の矢は　水気(みずけ)を含んだ月の貞潔な光のなかで消されるのを見ることができた　そして　その皇帝に誓いを立てた処女は　恋の魔力にとりつかれることなく乙女の瞑想に耽りながら通り過ぎて行ったのじゃ　されどわしは　キューピッドの放った矢がどこに落下したかを見とどけた。その矢は　一輪の可憐な西方の花の上に落下したのじゃ……その花は　以前は乳白色じゃったが　今は恋の傷ゆえに深紅色をしている……そして乙女たちはその花を　道楽恋の花と呼んでいる。わしにその花を取ってまいれ　その草は一度お前に見せた筈じゃ　その花の汁は　眠っている瞼の上に塗られるや　男であろうと女であろうとまっさきに目に入った生き物に恋狂いさせるであろう。この草をわしのところへ持ってこい。そしてレヴィアタンが　一リーグ泳ぐよりも早く　ここへ戻ってこい。

パック。わたくしは四十分間で地球を帯でひと巻きいたしましょう。

ハーネスが上に引用した場面をこの劇の唯一の挿し絵として選択して挿入したことには，ハーネスの深慮の上での判断が推測される。と言うのは，この挿し絵がイラストする道楽恋の花の汁，オベロンがパックに命じて持ってこさせる道楽花とゆう名の花の魔法の力は，このドラマの構成において最も重要な絶対に無くてはならない働きをするからである。すなわち，この道楽恋の花の汁の魔力のおかげでオベロンとタイタニアの長い間の不和が解消される。オベロンがタイタニアが寵愛している可愛い小姓を所望したのにタイタニアがそれを拒否したのが原因で妖精の夫婦の間に不和が続いた。ところが，オベロンがこの道楽恋の花の汁をタイタニアの眠っている瞼に塗って，ろばの頭のボタムにタイタニアが夢中になっているときに乗じて彼女からこころよく小姓をもらい受け，その後でもう一度タイタニアに魔法を使って彼女の狂った恋を正常な夫婦愛に復帰させる。この意味において，挿し絵の道楽恋の花の魔力は，このドラマの構成と進行に無くてはならない原動力である。さらに，この花の魔力が，このドラマの有名な見どころ楽しみどころ，すなわち妖精の女王がろばの頭のボタムに惚れて彼を寵愛するコミカルでファンタスチックな場面を作りだすことになる。さらに，この挿し絵の道楽恋の花の汁の魔力のおかげで，はじめヘレナを愛していたディミートリアスが，友人ライザンダーが愛するハーミアに横恋慕するとゆう食い違いが改められて，ライザンダーとハーミアの恋は元通りになり，デミートリアスは元通りヘレナの愛に復帰して，二組の恋人の食い違いが解消される。このように，挿し絵の道楽の花の魔力は，このドラマの不和を和へ，愛の食い違いと争いを正常な状態と秩序へ復帰させるとゆう主要な場面構成とその進行を可能ならしめる原動力である。それだけでなく，パックがこの道楽恋の花の汁を間違ってライザンダーの眠っている瞼に塗ったために，ライザンダーが愛していたハーミアを棄ててヘレナを追いかけはじめて，とんでもないコミカルな食い違いと争い，つまり間違いの喜劇が展開してヴァライアティがドラマ構成に織りこまれる。それもまた挿し絵の道楽恋の花の魔力によるものである。これらのことを考えると，ハーネスはこのドラマの構成と進行と，それを成功へ導く原動力をひとつ選んで挿し絵にしたと言うことができる。ちなみに，Herbert Farjeon の Nonesuch Folio の第二

巻から，ハーネスの挿し絵の部分を引用する。

Puc. I remember.
Ob. That very time I say (but thou couldst not)
Flying betweene the cold Moone and the earth,
Cupid all arm'd; a certaine aime he tooke
At a faire Vestall, throned by the West,
And loos'd his love–shaft smartly from his bow,
As it should pierce a hundred thousand hearts,
But I might see young *Cupids* fiery shaft
Quencht in the chaste beames of the watry Moone;
And the imperiall Votresse passed on,
In maiden meditation, fancy free.
Yet markt I where the bolt of *Cupid* fell.
It fell upon a little westerne flower;
Before, mik-white; now purple with loves wound,
And maidens call it, Love in idlenesse.
Fetch me that flower; the hearb I shew'd thee once,
The juyce of it, on sleeping eye-lids laid,
Will make or man or woman madly dote
Upon the next live creature that it sees.
Fetch me this hearbe, and be thou heere againe,
Ere the *Leviathan* can swim a league.
Pucke. Ile put a girdle about the earth, in forty minutes.

(vol. 2, ACT Ⅱ. –SCENE I, P.P. 19－20)

上の Folio からの引用について言うならば，Moone が大文字化されて月光のムードが強調され，Vestall と West が大文字化されて神話的ロマンチックさが強調され，再び水気を含んだ Moone が大文字化され，Votresse が大文字化され，*Leviathan* がイタリック化されて神話的ロマンチックさが強調される。

さて，ハーネス編シェイクスピア全集の第三巻の "*Merchant of Venice*" について言うならば，ハーネスはこのドラマの挿入挿し絵として，四幕一場の Gratiano のシャイロックにたいする "In christening thou shalt have two godfathers;" とゆう台詞の場面をひとつ選んで挿入挿し絵に

している。この挿し絵の部分を大幅に引用する。

Ant. So please my lord the duke, and all the court,
To quit the fire for one half of his goods;
I am content, so he will let me have
The other half in use, –to render it,
Upon his death, unto the gentleman
That lately stole his daughter;
Two things provided more, –That, for this favour,
He presently become a Christian;
The other, that he do record a gift,
Here in the court, of all he dies possess'd,
Unto his son Lorenzo and his daughter.
Duke. He shall do this; or else I do recant
The pardon, that I late pronounced here.
Por. Art thou contented, Jew, what dost thou say ?
Shy. I am content.
Por. Clerk, draw a deed of gift.
Shy. I pray you, give me leave to go from hence;
I am not well; send the deed after me,
And I will sign it.
Duke. Get thee gone, but do it.
Gra. In christening thou shalt have two godfathers;
Had I been judge, thou should'st have had ten more,
To bring thee to the gallows, not the font.
[*Exit.* Shylock.

(vol. 3, ACT Ⅳ. –Scene I. P.P. 68－69)

上の引用の大意を解釈するならば,

アントニオ。公爵様　ならびに法廷のみなさまがたに　彼（シャイロック）の財産の半分にたいする罰金の件はおやめくださるように謹んでお願い申しあげます。わたくしは満足でございます　残りの半分をわたくしに使わしてくだされば。……彼が死んだときに彼の娘を最近盗んだ紳士にその財産を与えるためでございます。もう二つのことをお許しいただきとうございます……この好意に免じて　彼がただちにキリスト教徒になること。もうひとつは　法廷のこ

の場で　彼が死んだときの遺産を彼の息子ロレンゾーと彼の娘へ贈与すると言う記録を行うことでございます。

公爵。彼にそうさせることにしよう　さもなければ　今ここでわしが宣言した寛大な許しを撤回する。

ポーシャ。それでよいか　ユダヤ人よ　お前の言い分はなんじゃ。

シャイロック。わたくしは満足でございます。

ポーシャ。書記よ　遺産贈与の証文を書きなさい。

シャイロック。お願いじゃ　わしにここから退場することを許してくだされ。体の具合が悪うございます。その証文は後から送ってくだされば　署名いたします。

公爵。立ち去るがよい　だが署名をするのだぞ。

グラシァノー。キリスト教徒として改宗するときには　お前は二人の神父を持つことになるであろう。もしもわしが裁判官であったとすれば　お前はもう十人の神父を持つことになっていただろう　お前を洗礼盤ではなくて絞首台へ送るためにな。

[シャイロック退場。

上の引用のグラシァノーの「もう十人の神父」については，ハーネスは Theobald の註を採用して，十二人の陪審員によってシャイロックを絞首刑にすることを意味するらしい。では，ハーネスは何故このグラシァノーのこの台詞の場面だけを挿し絵として選択したのであろうか。すくなくとも筆者には思いもよらぬ選択である。よりさかのぼってグラシァノーの台詞を引用する。

Gra. Beg, that thou may'st have leave to hang thyself:
And yet, thy wealth being forfeit to the state,
Thou hast not left the value of a cord;
Therefore, thou must be hang'd at the state's charge.

(vol. 3, ACT Ⅳ. –SCENE I. P. 68)

上の引用の大意を解釈するならば，

グラシァノー。自分で首をくくる許しを乞え。されど　お前の富は国家に没収されるのだから　首をくくる紐を買う金もない。よってお前は国の命令で絞首刑に処せられねばならなぬのだ。

もうひとつ彼の台詞を引用する。

Gra. A halter gratis; nothing else; for God's sake.

(vol. 3, ACT Ⅳ. –SCENE I. P. 68)

上の引用の大意を解釈するならば，

グラシァノー。無料の絞首刑だ　ほかに手はない　神のおんために。

上に引用した三つのグラシァノーの台詞は，キリスト教徒のユダヤ人にたいする極めて強烈な反感を示す。さて，ハーネスがこのグラシァノーの最後の台詞の場面だけをこのドラマの唯一の挿し絵に選んだ理由は三つ考えられる。そのひとつは，ハーネス自身がグラシァノーの台詞に特に共鳴し同感を強調するためにこの場面をとくに挿し絵として選んだと考えることである。筆者はこの判断はしたくない。第二は，当時のキリスト教徒とユダヤ人の反感，とくに，キリスト教徒のユダヤ人にたいする反感がいかに強烈であったかを読者に強調するためにハーネスはこの場面を挿し絵として選んだとゆう判断であり，これは否定しなくてもよい。第三は，アントニオを中心とする公爵やポーシャのシャイロックにたいする慈悲を，グラシァノーの冷厳なセリフと対極的に結合することによって，キリスト教の真の愛を対照的に強調する効果を生みだすことを読者に暗示するためにこの場面を選んだと判断することである。そして，アントニオの敵をも愛するキリスト教の愛の真髄を体感できないシャイロックにおのれの非を悟らせてキリスト教徒として生まれ変らせるためには，このグラシァノーの冷厳にすぎるほどの台詞が無くてはならない極めて重要な台詞である。これらの理由から，あえてグラシァノーの台詞の場面が選ばれたのであろう。ちなみに，Herbert Farjeon の Nonesuch Folio から上の引用に該当する部分を引用する。ハーネス版と違っている台詞だけを引用する。

Ant. So please my Lord the Duke, and all the Court
To quit the fine for one halfe of his goods,
I am content: so he will let me have
The other halfe in use, to render it
Upon his death, unto the Gentleman
That lately stole his daughter.
Two things provided more, that for this favour
He presently become a Christian:
The other, that he doe record a gift
Heere in the Court of all he dies possest
Unto his sonne *Lorenzo,* and his daughter.

(vol. 2, P. 149)

上の Folio の引用においては，Lord the Duke と Court が大文字化されて法廷の厳正さと公爵の尊厳が強調され，Gentleman が大文字化されてアントニオのロレンゾーにたいする友愛が強調され，Christian が大文字化されて，シャイロックの改宗が強調される。また *Lorenzo* がイ

タリック化されて，アントニオの彼にたいする思いやりが強調される。

次にハーネス版シェイクスピア全集の第三巻に入っている *"As You Like It"* の挿し絵として，二幕六場で，もはや歩けなくなったアダム老人がアーデンの森のなかで樹木の幹にもたれかかり，オーランドーがアダム老人を助け起しながら，"For my sake, be comfortable;" とはげましている場面が選ばれた。この場面を大幅に引用する。

Adam. Dear master, I can go no further: O, I die for food ! Here lie I down, and measure out my grave. Farewell, kind master.

Orl. Why, how now, Adam ! no greater heart in thee ? Live a little; comfort a little; cheer thyself a little: if this uncouth forest yield any thing savage, I will either be food for it, or bring it for food to thee. Thy conceit is nearer death than thy powers. For my sake, be comfortable; hold death awhile at the arm's end: I will here be with thee presently; and if I bring thee not something to eat, I'll give thee leave to die: but if thou diest before I come, thou art a mocker of my labour. Well said ! thou look'st cheerily: and I'll be with thee quickly.—Yet thou liest in the bleak air: Come, I will bear thee to some shelter; and thou shalt not die for lack of a dinner, if there live any thing in this desert. Cheerly, good Adam !

(vol. 3, ACT Ⅱ. –SCENE VI, P. 114)

上の引用の大意を解釈するならば，

アダム。愛するご主人様　わたくしはもうこれ以上歩くことはできません。おお　わたくしは空腹で死んでしまいます！　わたくしはここに横たわり　ここを墓地にします。さらばでございます　やさしい御主人様。

オーランドー。なんだ　どうしたんだ　アダム！　お前にはそれだけしか元気が無いのか。死ぬのは少し早すぎるぞ　すこしは元気をだせ　元気をだすんだ。もしもこの見知らぬ気味悪い森に　なにか野生の動物があらわれるならば　わしはそのえじきになるか　さもなければその動物をお前の食べ物として持ってくるぞ。お前はまだ力があるのに死ぬことを考えるのは早すぎる。わしのために元気を出してくれ　今しばらくの間死を遠ざけておいてくれ　わしはすぐにここへ　お前のところへ戻ってくるぞ。そして　もしわしが何か食べ物を持ってこなけれ

ば　死の許可を与えてやろう。しかしながら　もしわしが戻ってくる前にお前が死ねば　わしの苦労を無にすることになるぞ。よくぞ言った！　顔色が活気づいたぞ　それでは早速に戻ってくるからな……それにしてもお前が横たわっている処は空気が冷たい　さあ　お前をどこか安全な場所へ運んでおこう　そして　もしこの森に何か生き物がいるならば　お前を死なせはしないぞ。しっかりするんだぞ　善良なアダムよ！

ハーネスが上の引用の場面をこのドラマの唯一の挿し絵として選択したことには，重要な意義がある。周知のとおり，アダム老人はオーランドーの父の時代からの忠義の家来であって，オーランドーが長男オリヴァーの迫害を受けて殺害されようとしていることを察知して，自分の老後の生活保障の為に貯蓄してきたなけなしの金を全部オーランドーに与えて，オリヴァーの屋敷を共に逃げだしてアーデンの森のなかへ入りこんだ。アダム老人自身も老齢のためにオリヴァーに解雇され追いだされたからである。ここで大事なことは，アダム老人は自分の老後の生命にひとしい金を全部犠牲にして，オーランドーを生命の危機から助けだそうとしたことである。そして今度は，アーデンの森のなかでアダム老人が空腹のために死に瀕すると，オーランドーは自分の生命を犠牲にしてアダム老人の生命を助けようとする。つまりこの挿し絵の場面は，アダム老人とオーランドーの互いに自己の生命を犠牲にしても相手の生命を救助しようとする絶対の愛の証しの場面である。とくに，オーランドーのこのような愛は，このドラマの主要な筋の進行を心暖まる愛の実りと神の摂理の目標に向って発展させるための唯一のもっとも強力な原動力となる。オーランドーはまた，彼の殺害を命じられてオーランドーを殺すためにアーデンの森に入った兄オリヴァーが，疲れはてて道端で眠っているとき空腹の雌ライオンに食われそうになっているのを見て，一度は自分を殺そうとした兄オリヴァーをそのまま放置しようとしたが，再び戻ってきて，またも自分の生命を犠牲にしてオリヴァーを救助するが，彼自身も大怪我をする。オーランドーの愛はまさにイエス，キリストの敵を愛する自己犠牲の愛，絶対の愛である。オーランドーのこの絶対の愛は，兄オリヴァーの憎しみを解消し，悔恨させ，オリヴァーを神の摂理に復帰させる。さらにオーランドーの愛はロザリンドとの愛の結婚の実りを生む。このように，ハーネスが選んだ挿し絵の場面は，*"As You Like It"* の最も重要なポイントを指示する。ハーネスのこの選択は望ましい適切な選択である。ちなみに，Herbert Farjeor 編の Nonesuch Folio から，同じ幕場を引用する。

Adam. Deere Master, I can go no further:
O I die for food. Heere lie I downe,
And measure out my grave. Farwel kinde master.
Orl. Why how now *Adam ?* No greater heart in
thee:
Live a little, comfort a little, cheere thy self a little.

16

If this uncouth Forrest yeeld any thing savage,
I wil either be food for it, or bring it for food to thee:
Thy conceite is neerer death, then thy powers.
For my sake be comfortable, hold death a while
At the armes end: I wil heere be with thee presently,
And if I bring thee not sometheng to eate,
I wil give thee leave to die: but if thou diest
Before I come, thou art a mocker of my labor.
Wel said, thou look'st cheerely,
And Ile be with thee quickly: yet thou liest
In the bleak aire. Come, I wil beare thee
To some shelter, and thou shalt not die
For lacke of a dinner,
If there live any thing in this Desert.
Cheerely good *Adam*.

(vol. 2, P.P. 197−198)

上の Folio では，*Adam* がイタリック化されオーランドーのアダムへの愛が強調される。次に，Forrest が大文字化されて，森の危険性が強調され，Desert も大文字化されて荒地の恐ろしい気味悪さが強調される。さらに，Master が大文字化されて，アダム老人のオーランドーへの敬愛が強調されている。